

需要回復基調、鮮明に

マークテック取締役営業部長

栗原 一博氏

2008年のリーマンショック後の景気後退から3年近くが経過。震災による市況停滞、円高為替による輸入品増加の懸念は残りつつも、工業用品市場が徐々に回復を見せ始めている。そこで今回は市況の実態を把握し今後の展望を見出すべく、金属探傷剤の最大手、マークテック(年商60億円)の栗原一博・取締役営業部長にインタビューした(聞き手は本誌編集長)。

× × ×

—最近のエアゾール工業用品市場の現状、特徴や傾向は。

「当社の今年現在までの販売実績は前年同期比おおよそ10%増で推移している。当社は金属探傷剤のマーケットリーダーであるため金

斬り込み対談

エアゾール工業用品市場の現状と見通し

デフレ下も品質最優先 中国工場に充填設備検討も



「環境対応品『エコチェック』の動きは10%増」
マークテック 栗原氏

つた。これら回復の動きは金属探傷剤に限ったことではなく、工業用ケミカル全般に言え、エアゾールという剤型ひとつ見ても同様の動きを示している」

—エアゾール製品はこのまま回復していくのか。

「このまま市場全体の回復が続けば、それに伴いエアゾール製品需要も回復を

自動車産業の落ち込みが各種部品や素材メーカー市況にも波及したことで鉄鋼およびプリント産業も等しく停滞を強いられましたが、その後のキャッチアップが予想以上に早かった。11月頃と想定されていたフル生産見込みも夏直前に前倒しにな

する。プラントの定修需要に際しても樂觀できない。化学プラント向けは近年ずっと厳しい状況にあり、今後も前年比2〜3割減で推移すると見込まれる。電力プラントは福島原発事故の影響から原子力発電向けが低迷、火力向けで補っても良く横這いだろう。もちろん、これら構造的な変化はエアゾール剤型にのみ当てはまることではないが、過去のデータを見ると消耗

して企業努力しており、結果的に製品単価は上がっていきのけは間違いない」
—一方で工業用品市場では安価な輸入品との競争が激しいと聞か。

「当社の取引先はいわゆる一流企業が多く、品質重視のお客様が多い。当社はお客様のニーズの変化に力を入れており、多くの個性ある製品を市場に投入してきた。中国製などの安価な輸入品を要求されることは少ない。当社とお取引されるお客様のニーズは、単にコストのみに無いという考えであり、それが我々の生きる道と考えている。もちろん昨今の原価低減の波を無視しているわけではなく、海外拠点の生産体制の構築も含め、当社ブランドの良品をリーズナブルに安定供給するという責務にも対応してきている」

—建設中の中国工場は。

「現在、当社は世界最遠地生産を念頭にグローバル市場でもリーダーとなることを考えている。中国・上海近郊に新工場を建設中で、来年春までの竣工・稼働を見込んでいます。まだ決まっていますが、同工場へのエアゾール充填設備導入の可能性も模索している」

「既にユーザーの求める商品は変わりつつある。特に感じるのは環境に対する意識であり、当社の環境対

「環境対応品『エコチェック』の動きは10%増」
マークテック 栗原氏